

◆環境・防災◆ ツキノワグマの毛に残された食物履歴を読み解く

昨年、岐阜県乗鞍岳でツキノワグマによる人身事故が起きた。事故の再発防止のために、ツキノワグマがどこから現れたのか、日頃から人里に出没して残飯を食べていたのか等、その行動の解明が求められている。本研究では、ツキノワグマの体毛に含まれる炭素と窒素の安定同位体を調べ、クマが2年間にわたり摂取していた食物について推定を行った。その結果、射殺された当該個体の炭素・窒素安定同位体比は、人里で残飯を食べている個体とは異なり、北アルプス周辺に生息する個体と同様の傾向を示した。つまり日常的に残飯を摂取していた可能性は低いと結論づけられた。

【P2037】

なぜツキノワグマは出没したか？—生元素安定同位体比解析による事故検証

(日本認証サービス¹・NPO 信州クマ研²・信大農³・岐阜大獣⁴・森林総研⁵) ○中下留美子^{1,2}・鈴木彌生子¹・林秀剛²・泉山茂之^{2,3}・中川恒祐⁴・八代田千鶴⁵・浅野玄⁴・鈴木正嗣⁴ [連絡者：中下留美子，電話：045-949-4664，E-mail:rnakashita@pure-foods.co.jp]

昨年9月に岐阜県乗鞍岳で起きたツキノワグマによる人身事故を覚えているだろうか？観光客らで賑わう豊平バスターミナル(標高2702m)に白昼突然出没したクマは10名もの人を負傷させた後、射殺された。事故発生直後、「なぜ多くの人々で賑わう観光地に突然クマが出没したのか？」という疑問に、「通常ツキノワグマはいないはず、観光客らや食堂から出る残飯に餌付いていたのではないか」、などとの報道がなされた。事故原因の究明は、事故の再発防止に向けて必要不可欠である。

本研究は、射殺されたツキノワグマから体毛を採取し、炭素・窒素安定同位体比解析を用いて体毛に記録された食性履歴を読み取ることで、当該個体が実際に残飯等を摂取していたのかを推定した。ツキノワグマの体毛は毎年晩春から秋まで食性を記録しながら成長し、翌年の秋までに抜け落ちる。当該個体はまだ前年の体毛が残っており、過去2年分の食性履歴を推定した。分析の結果、当該個体の炭素・窒素同位体比は、人里で残飯を食べていた個体とは異なり、北アルプス周辺に生息する他の個体と同様の傾向を示した。この結果は胃内容物の分析結果とも一致しており、過去2年間、残飯等に依存した形跡はないことが明らかとなった。

以上のことから、当該個体は残飯等に誘引されて観光地に出没した異常個体ではなく、北アルプス高山域を生息圏の一部とする自然の個体であった可能性が高い。

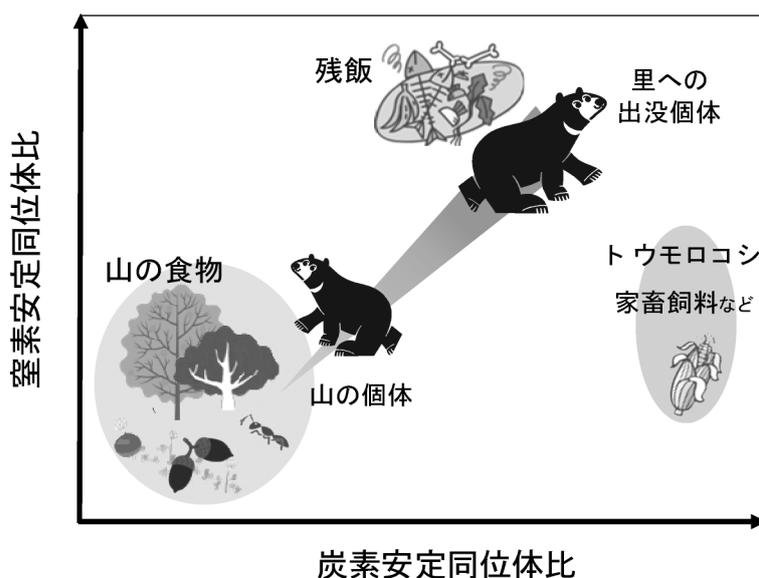


図. 生元素安定同位体比解析によるツキノワグマの食性解析
図の右上へ分布するほど人里の食物に依存した可能性が高い。